



絆

袁 竹 秀
YUAN ZHU XIU

祖国を離れ、もう一年七ヶ月が経ちました。時の経つのは本当に早く、信じられないくらいに一日が、一週間が過ぎていくのを感じています。私が日本に来た時から心掛けていることの一つに、あいさつがあります。例え知らない人でも子供でも進んで「おはようございます。」と言うようにしています。お陰で知らない人からも好意的に受け入れられ、今では「藤井さんのところの研修生」と認知され、向こうからもあいさつしてもらえるようになりました。それはこの地区では私が初めての中国人研修生だから、私は悪い評価を受けてはいけないと常々心掛けています。仕事場でも、お父さんが中国語で話しかけたりふざけて会話してくるので比較的順調に一日が始まります。

四月二十八日の午後、少し早くトマト収穫が終わり、お父さんが「手伝って」と言うので土止めのマメ板をする工事を手伝いました。「高いから気をつけて！」とお互いに声を掛け合いながら慎重に進めていた矢先、お父さんが足を滑らし落ちてしまったのです。高さは4mくらいはあり、恐る恐る下を覗いてもお父さんは動きません。下は小川になっていて血で真っ赤に染まっていました。大変だ！私は急いで段を下り、無我夢中でお父さんの所に駆け寄りました。夢中で頭を抱きかかえ、かぶっていたタオルを傷口にあてました。お父さんは「頭と背中が痛いから救急車を・・・」「お母さん、救急車をお願いします。」と私は何度も叫びました。やが

て救急車が到着。村人たちが大勢集まり誘導してくれました。救急隊員が左肩を、私が右肩を抱え小川から脱出。タンカに乗せられお父さんは救急車で病院へ行ってしまいました。私はただ両手を合わせて心で祈りました。どうか無事でいて下さいと。私はその晩寝れませんでした。心配と不安。初めてここに着いて迎えに来てくれた日のこと、話せない日本語、初めての仕事等いろいろ頭に浮かんで、もしものことがあったらと……。翌日目を腫らしたお母さんに会い、夕べのことを話したところ、「袁さんも家の子だね。私と同じこと思ってるね。」と言い二人で笑い、「お父さんの分まで頑張ろうね。」と話しました。しかし日本のお母さんは出荷、経理、消毒、資材等何でもお父さんがやっていたので、これからが大変です。幸い、お父さんは一カ月半の「絶対安静」で帰ってこられるとお母さんから聞きました。

この事故をきっかけに、周囲の地域の人々も善意にあふれている事が分かったし、何より強い絆で私も家族の一員になった事がとても良いことでした。トマトを作る喜びも大変なことも不幸な出来事も共有して、力を合わせて今日と言う日を大切にする中で、私も成長できたら幸せです。そして信頼し合う絆こそが何物にも変えがたい宝物だと思います。どうか一日も早く、お父さんに元気になって帰ってきてもらいたいと思います。